

第 2 回震災津波伝承施設検討委員会の概要（論点整理）

（第 3 回 高田松原津波復興祈念公園震災津波伝承施設検討委員会 資料）

平成 2 8 年 2 月 2 2 日

第2回震災津波伝承施設検討委員会の概要（論点整理）

a 空間デザイン検討委員会の検討状況について

震災遺構と本施設の関係性が重要。 <u>移動の動線や、滞在時間等を空間ワーキングで検討する必要がある。</u>	柴山副委員長
<u>高いところから見て一望できるような空間設計が必要。</u>	小笠原委員
復興の象徴としてベルトコンベアを残すことはすばらしい。(全体の長さ、大きさを理解できるように) <u>ベルトコンベアについて、この場所の基礎を残すという意味づけを考えていかなければならない。</u>	柴山副委員長

b 協働体制検討ワーキンググループの検討状況について

<u>この場に安心感がなければ、身近な陸前高田市民は使ってくれないのではないか。</u> 空間委員会で検討していただきたい。	柴山副委員長
--	--------

c 震災津波関連資料収集活用有識者会議の検討状況について

(伝承施設の機能について)多くの市民、県民が参加・参画した活動を展開するためには、 <u>展示以外の教育普及、調査研究にもっとウェイトを置くことが大事。</u>	本多アドバイザー
各学校に残されている <u>学校往復文書や学校日誌には明治・昭和・チリ地震の津波についての記録がある。</u> 今後統廃合が進む中で廃棄処分される可能性があるため、 <u>一刻も早い収集・保存が必要。</u>	本多アドバイザー

第2回震災津波伝承施設検討委員会の概要（論点整理）

d 本施設の方向性について

記録、記憶が風化することのないようにしなければならない。二度と同じことを繰り返さないためには、津波について、もう少しインパクトのある捉え方が必要。 <u>伝承の必要性を訴える言葉が必要</u> 。そうすることで「津波伝承施設」の必要な性格や機能が位置づいてくるのではないか。	本多アドバイザー
陸前高田のまち全体が津波防災という面で研究対象になり得る。ぜひ <u>津波防災の国際研究機能や発信機能の充実に図ってもらいたい</u> 。すぐには難しくても、まずは、将来を見据えて展示内容やウェブでの多言語発信など。	小笠原委員
<u>まちが幾度となく津波災害から立ち直っていく様子を改めて皆さんに知らせることは重要だ</u> 。どのようにして新しいまちづくりをしてきたか、過去においても、どのような反省があって、また何回も立ち上がってきたのか、の検討過程が重要。	熊谷委員
まち全体を見て、そこから立ち上がっているまちとか、人々とか、そういうことをぜひ展示して、 <u>皆さんをまちのほうに誘い、まち全体を見ていただきたい</u> 。	熊谷委員
<u>陸前高田市が再生、創生していく復興プロセスがどうなっていくのかは非常に重要な視点</u> 。その意味で次世代の参加する <u>未来志向で、進化する伝承館であってほしい</u> 。	山口委員
世界にとっては、どこの県がどうだということではなくて、この大災害をどう乗り越えてきたかということが問われる。それが知として残っていくべき。	山口委員

e 震災遺構について

(気仙大橋の橋桁について) <u>実物を間近で見るとするのは非常に大切だ</u> 。もしできればだが、架け替えた橋の近くに橋詰広場を設け、架け替えた橋と流出した橋を比較できれば、災害の状況を想像できるのではないか。	熊谷委員
<u>それぞれの遺構が何を意味しているのか、津波のエネルギー、到達の速さ、高さ、建物の立地・形状・構造などが関係し現在の状態になっている。専門家による調査を実施し、その結果を一般に分かりやすく解説することにより、複数の遺構を残す意味が一層出てくる</u> 。	赤沼委員
<u>「何を語り、何を伝えるために震災遺構を残すのか」が大事</u> 。また、 <u>自らの体験をリアリティを持って語り続けることが、「語り部」の方々が担う役割</u> 。	山口委員

第2回震災津波伝承施設検討委員会の概要（論点整理）

f 県内各市町村の伝承施設等の機能分担・連携について

<p>市町村との連携について、<u>各市町村の計画のおおよその規模、熟度、種類などが地図上にプロットしているなど、ハード面とソフト面の情報も入れて、三陸全体の姿がイメージできる資料が必要。</u></p>	熊谷委員
<p>市町村との連携については、<u>なるべく情報発信を一本化し、学習も観光も、これを見ればいいというふうにすることが大事。</u></p>	南委員長
<p>本施設で全て完結してしまうと次のところに行きたいという気持ちにならない可能性が高くなる。被害の度合いや復興状況は各市町村によってまるっきり違うので、<u>ここに行くとかいう学習ができるといったような特徴を各市町村の施設に持たせることができるといい。</u>連携について深く考えなければならない。</p>	柴山副委員長
<p>本施設で、特定の事象を詳細に説明すると、それで完結し、他地域に足を運ぶ必要がないという状況になる危険性が大きくなる。<u>説明は総論にして、事象を概略的に紹介し、各論については実際に地域に足を運ぶ仕掛けを準備し、他機関との連携を構築・強化していく事が有効。</u></p>	赤沼委員
<p>これから準備されるであろう市町村等の施設の性格を視野に入れて、<u>将来的に連携が構築されるシステムづくりをしていくスタンスがよい。</u>こちらから連携を積極的に働きかけ、うまく構築・機能する状況にしていくことが大事。</p>	赤沼委員
<p><u>整備されるまでの間にこそ、高田松原をゲートウェイとしての三陸沿岸ツアーといったことを果敢に仕掛け継続することが大事。</u>例えば、釜石市でのラグビーワールドカップや、2020年オリンピックに向けて、東北をアピールするなどして、目標を共有していく事が必要。</p>	山口委員

第2回震災津波伝承施設検討委員会の概要（論点整理）

g 展示のストーリーについて

<p><u>市民・県民が伝承施設に何を期待しているか、また、市民県民に伝承施設を活用して何を身につけて欲しいかという視点が必要。</u>1.「同じ過ちを繰り返さないために学び続けよう」、2.「震災の記録・記憶を後世につなげよう」、3.「自分の経験を次世代に伝えよう」、4.「震災の経験を新しいまちづくりに活かそう」、5.「震災の実情と復興の姿を国内外に発信しよう」だと思う。<u>市民・県民主体となった行動目標として示していく事が必要。</u></p>	本多アドバイザー
<p>ボランティアガイドの話によると、震災直後と時間が経過してからとは、<u>来訪者が聞きたい内容も変化してきているようなので、そのような面からも対応が必要。</u></p>	本多アドバイザー
<p>展示ストーリーを起承転結で考えた場合、「承」では、<u>歴史が生かされたのか、という視点から展示を組み立てる方向性がある。</u>「歴史が語る真実」「歴史は私たちに何を語っていたのか」といった視点からのアプローチだ。</p>	山口委員
<p><u>本施設で一番重要なのは教訓を学ぶということ、災害の歴史を知ることが一番重要だ。</u></p>	柴山副委員長
<p><u>「事実を知る」展示については、見たくない人は飛ばせる動線があるといい。</u></p>	柴山副委員長
<p>「導入展示」と「事実を知る」は、辛過ぎる印象がある。<u>「導入展示」のところには、努力してきた未来を見ている人たちの姿が最初にどんとあって勇気づけられるところから入ってもいいのではないか。</u></p>	南委員長
<p><u>震災の本当の恐ろしさを伝えることも重要だが、被災地で生活している皆様の様々な状況にも配慮することが必要。</u></p>	熊谷委員

第2回震災津波伝承施設検討委員会の概要（論点整理）

h 展示の施設や設備について

<p><u>教訓も時代の変化によって変わっていく。展示の入れ替えがフレキシブルに対応できること、簡便に入れ替えやすい展示計画が必要。</u></p>	柴山副委員長
<p><u>事実が発生した要因については今後の解析により解釈が変わる。新しい情報が次々に出てくることを視野に入れた展示のあり方を考慮する必要がある。</u></p>	赤沼委員
<p><u>常設展示を維持するための予備室や、企画展を行う場合の準備室的な部屋が必要。</u></p>	赤沼委員

i 運営について

<p><u>いろんな住民の方にかかわってもらい、協働ワーキングと共に、主体的に、継続的に、自立的に回していくということは少し先かもしれないが、今考えておかないといけない。</u></p>	南委員長
---	------

j 基本計画の記載項目について

<p><u>開設後も資料の収集、保存事業は継続されていかなければならないと思うので、章立ての中に入れてほしい。</u></p>	本多アドバイザー
<p><u>住民が後々参画し、管理だとか運営に積極的にかかわっていくという仕組みができると良い。</u></p>	南委員長
<p><u>施設間連携等について、ソフト的なつながりも多分にあるので、沿岸12市町村との連携や、遠野との連携など、ソフト面、ハード面両方ともの連携を書いてもらいたい。</u></p>	柴山副院長
<p><u>運営計画について、陸前高田市との協働を大切に、母体にはどういう主体（組織）が参加するのか、その主体は互いにどう協調しながら進めていくべきかを書いてもらいたい。</u></p>	山口委員